

多機能型事業所

かなで

療育実践ハンドブック

一人ひとりの「できた!」を大切に育てます



合同会社 きょうめい
多機能型事業所 かなで

目次

 はじめに

 かなで職員に期待する姿

第1章  かなでの理念と目指す支援（理念）

第2章  かなでの療育の基本的な考え方（支援方針）

第3章  療育を支える理論（ICF・ストレングス・機能的アプローチ・TEACCH）

第4章  環境づくりと構造化（環境）

第5章  安心できる環境の工夫（感覚・安心・ルール）

第6章  支援の組み立て（アセスメント～計画～実施）

第7章  一日の流れと活動内容（実践）

第8章  個別支援の実践（自立課題・個別配慮・強みを活かす支援・事例）

第9章  ご家族との連携

第10章  安全管理・健康管理

第11章  職員の役割とチーム支援

第12章  評価・改善・情報管理（PDCA）

 管理者メッセージ

 児童発達支援管理責任者メッセージ

 事業所情報



はじめに

このハンドブックは、多機能型事業所かなでが大切にしている療育の考え方や支援の方法についてまとめたものです。

かなででは、「**できた。**」という小さな成功体験を積み重ねることを大切にしています。しかし、私たちが目指しているのは、事業所の中だけでできるようになることではありません。

子どもたちが成長し、**青年期、そして成人期を迎えたときに、自分らしく社会の中で生活し、自分の力を発揮しながら、やりたいことに挑戦できることを目指しています。**

そのために、一人ひとりの発達段階や特性を理解し、その子に合った環境を整え、安心して学び、挑戦できる支援を積み重ねています。



本書は、職員が共通の考え方のもとで質の高い支援を実践するための指針であるとともに、ご利用されるご家族や、学校・保育所・幼稚園・相談支援事業所などの関係機関の皆さまに、かなでの療育について知っていただき、安心してご利用いただくための一冊でもあります。

このハンドブックを通して、私たちが大切にしている思いや支援の方向性を知っていただき、子どもたちのより良い成長に向けて、ともに歩んでいけることを願っています。

子どもたちの今日の「できた」が、未来の自信となり、その先の人生で「やってみよう」と挑戦できる力につながるように。

このハンドブックが、その支援を支える一冊となれば幸いです。



かなで職員に期待する姿

～子どもたちの「できた!」と一緒に育てるために～

かなでは、経験や資格だけでなく、子どもを大切に思う気持ちと学び続ける姿勢を大切にしています。
初めから完璧な支援ができる人はいません。迷ったり、悩んだり、失敗したりすることは、成長するために必要な経験です。
一人で抱え込まず、仲間と支え合いながら、一緒に子どもたちの成長を支えていきましょう。

1 自信をもって子どもと関わってください

子どもは、職員の表情や雰囲気をよく感じ取っています。完璧な支援を目指すのではなく、まずは目の前の子どもと誠実に向き合うことを大切にしてください。

困ったときや判断に迷ったときは、一人で抱え込まず、
管理者、児童発達支援管理責任者、先輩職員に相談してください。

かなでは、一人で頑張る職場ではなく、それぞれの専門性を生かしながら、みんなで支え合う職場です。



2 人の話は最後まで聞きましょう

子どもにも、ご家族にも、職員にも、それぞれの思いや考え、背景があります。
相手の話の途中で結論を出したり、自分の考えを話し始めたりせず、
相手の話が終わってから自分の考えを伝えることを大切にしてください。
「聞くこと」は、相手を理解し、信頼関係を築く第一歩です。



3 仲間の考えを大切にしましょう

職員それぞれに、経験や資格、得意なことがあります。そのため、支援の考え方や意見が異なることもあります。「違う＝間違い」ではありません。
まずは相手の考えや理由を最後まで聞き、お互いを尊重しながら話し合うことを大切にしてください。
相手を否定することよりも、「なぜそう考えたのだろう」という視点を持つことで、
お互いに学び合うことができます。一人では思いつかなかった視点が、新しい支援につながります。



4 仲間や関係機関への敬意を忘れないでください

学校、幼稚園、保育園、相談支援専門員、他事業所など、子どもを支える仲間はたくさんいます。
考え方や支援方法が異なることがあっても、互いを尊重し、感謝の気持ちを持って連携することが、
より良い支援につながります。私たちは、同じ目標である「子どものより良い成長」に向かって
協力する仲間です。



5 学び続ける姿勢を大切にしましょう

かなでは、経験や資格だけでなく、学び続ける姿勢を大切にしています。
これまでの経験や知識は大切な財産です。しかし、支援に正解は一つはありません。
子ども一人ひとりに合った支援を実践するためには、新しい考え方や方法を学び続けることが大切です。

未経験だからこそその強みもあります。「これまでこうしてきた」という固定観念にとらわれにくいからこそ、
子ども一人ひとりを素直な視点で見ることができます。その気づきが、新しい支援につながることもあります。
一方で、経験を積んだ職員だからこそ気づけることや、培ってきた知識・技術もあります。
お互いの強みを認め合い、学び合いながら、より良い支援を一緒につくっていきましょう。



6 子どもの「できた!」と一緒に喜びましょう

かなで大切にしているのは、小さな成功体験の積み重ねです。子どもの「できた!」を見つけ、
一緒に喜び、その喜びをご家族や関係機関とも共有していきましょう。
その一つひとつの積み重ねが、子どもの自信となり、未来につながっていきます。



かなで職員の約束



子どもと
誠実に向き合う



困ったときは
管理者・児発管・
先輩職員へ相談する



相手の話が終わってから
自分の考えを伝える



仲間の考えを尊重し、
否定から入らない



同僚や関係機関への
敬意と感謝を忘れない



学び続け、
かなでの支援をともに育てる



子どもの「できた!」を
一緒に喜ぶ

第1章

かなでの理念と目指す支援

かなででは、「できた!」という小さな成功体験を積み重ねることを大切にしています。

子ども一人ひとりの発達段階や特性、思いや願いを理解し、

その子らしい成長を支えることが私たちの役割です。

そして、子どもたちが将来、自分らしく社会の中で生活し、

自分の力を発揮できるようになることを目指して支援を行っています。



1 かなでの理念

一人ひとりの「できた!」を大切に育てます。

私たちは、子ども一人ひとりの個性や可能性を尊重し、
小さな成功体験を積み重ねることで、自信や自己肯定感を育みます。
「できた!」を子どもと一緒に喜び、
その経験を次の挑戦につなげることを大切にしています。



2 目指す支援

子どもの今だけでなく、未来を見据えた支援を行います。

事業所の中だけで「できる」ことを目標にするのではなく、
家庭・学校・地域など生活のあらゆる場面で力を発揮できることを目指します。
将来の自立と社会参加につながる力を育てます。



3 大切にしていること



一人ひとりの
違いを尊重します



子どもの強みや
興味を大切にします



安心して挑戦できる
環境を整えます



保護者や関係機関と
協力します



子どもの笑顔と
成長をともに喜びます

私たちの願い

子どもたちが、自分らしく成長し、自分で考え、自分で選び、
安心して社会の中で生活できるよう支援を続けていきます。
一人ひとりの今日の「できた!」が、将来の自立と社会参加につながる力となるよう、
ご家族や地域とともに歩み続けます。



第2章

かなでの療育の基本的な考え方

かなでの療育は、子ども一人ひとりの特性や発達段階を理解し、その子らしい成長を支えることを大切にしています。

私たちは、子どもが「できた！」を積み重ね、自信を育み、将来に向けて自分らしく生活できる力を身につけていけるよう、以下の4つの考え方を基本として支援を行います。



1 一人ひとりを尊重する支援

子ども一人ひとりの個性や特性、得意なことや困りごとを理解し、その子に合った環境や方法で支援します。

「その子らしさ」を認め、自己肯定感を育みます。



私たちは、一人ひとりの「ペース」「考え方」「感じ方」を大切にします。

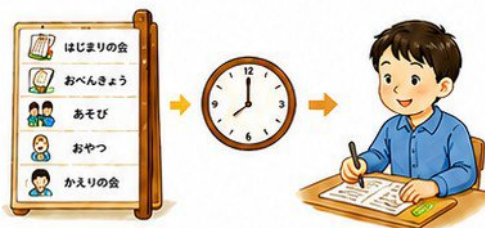


2 見通しを持って行動できる支援

スケジュールや視覚的な手がかりを活用し、「いつ・何を・どこで・どのようにするのか」が分かる環境を整えます。見通しが持てることで、安心して行動することができます。



見通しは、子どもの「安心」と「自信」につながります。



3 強みや興味を活かす支援

子どもの得意なことや好きなこと、興味・関心を支援に取り入れ、「やってみたい!」「もっとやりたい!」という意欲につなげます。成功体験を積み重ね、挑戦する力を育みます。



「好き!」「得意!」は、子どもの成長を支える大きなエネルギーです。



4 生活の中で力を育てる支援

日常生活や遊び、集団活動、地域での経験など、生活のあらゆる場面を学びの機会と捉え、自分で考え、選び、行動する力を育てます。



生活の中に学びがあり、その積み重ねが「生きる力」になります。



これらの考え方を大切にしながら…

子ども一人ひとりの「できた!」を丁寧に積み重ね、安心して過ごせる環境の中で、将来の自立と社会参加につながる力を育てていきます。



療育を支える理論

～子どもの「今」と「未来」をつなぐために～

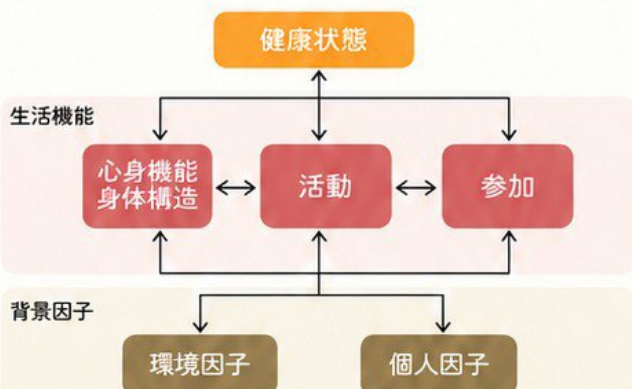


かなででは、ソーシャルワークや療育の考え方を取り入れ、子ども一人ひとりの「できた!」「うれしい!」を大切にしながら、将来の自立と社会参加につながる力を育てます。そのために、以下の考え方や理論を土台として支援を行います。

1 ICF（国際生活機能分類）の考え方

子どもを「できる・できない」だけで判断せず、生活全体の中で捉えます。

ICF は、心身の状態だけでなく、環境や周りの人との関わりも含めて、その子の生活を総合的に考える考え方です。



子どもに合った環境を整えることで、「活動」や「参加」が広がり、その子らしい生活が実現していきます。

2 ストレngthモデル

困りごとや苦しいことだけに目を向けるのではなく、「強み」「得意なこと」「好きなこと」に注目し、支援につなげます。

強みを活かすことで…



やってみよう!
の気持ちが育つ

自信がつき、
自己肯定感が高まる

できることが増え、
意欲や挑戦する力
につながる

「強みを伸ばす支援」が、その子の未来をつくります。

3 機能的アプローチ

子どもや保護者との信頼関係を大切に、一人ひとりの思いや自己決定を尊重しながら、子どもが主体的に活動や経験を積み重ね、自分で考え、選び、行動する力を育てる支援の考え方です。

育てたい力の例

- 自分でやってみる力
- 人と関わる力
- 気持ちを伝える力
- 身のまわりのことをやる力
- 学習や仕事につながる力



今の経験が
将来の生活や
社会参加に
つながる!

「なぜこの活動をするのか」を大切に、その子の将来につながる力を意識した支援を行います。

4 TEACCHプログラムとの関係

構造化された環境の中で、その子らしく力を発揮できるようにします。TEACCH プログラムは、ASD（自閉スペクトラム症）の特性に配慮した支援の考え方です。子どもが「わかる」「見通しがもてる」「安心して取り組める」環境を整えます。

TEACCH の 4 つの基本的な考え方

構造化 (環境の構造化)	視覚的支援	個別化	ストレングス (強み) の活用
物理的・時間的 構造化で、わかり やすく、安心できる 環境をつくります。	絵や写真、スケジュール カードなどを使い、 「いつ・どこで・何を するか」を視覚的に 伝えます。	一人ひとりの特性や 興味、強み、発達段階 に合わせたやり方や 内容で支援を行います。	得意なことや好きなこと を活動に取り入れ、 自信や意欲につなげます。

TEACCH プログラムは、構造化や視覚的支援を通して、機能的アプローチやストレングスモデル、エンパワーメントの考え方を実践する支援プログラムです。

まとめ かなででは、これらの考え方を土台に、子ども一人ひとりに合った支援を行います。



子どもを
生活全体で
捉える
(ICFの視点)



強みや得意を
活かして育てる
(ストレングス
モデル)



意味のある活動を
通して、生きる力
を育てる
(機能的アプローチ)



「わかる・見通しがもてる・
安心できる」環境を整える
(TEACCH プログラム)



子ども自身の
力を信じ、
未来につなげる



かなででは、子どもが自分らしく生き生きと輝ける未来へ、一歩ずつつながる支援を実践していきます。



第4章

かなでの療育を支える 環境づくりと構造化

～子どもが安心して、自分で行動できるように～



子どもが安心して活動できるようにするためには、
「見てわかる」「予測できる」「選びやすい」環境が大切です。
かなでは、構造化された環境の中で、子ども一人ひとりが
自分らしく過ごせるように支援を行います。

構造化された環境とは

構造化された環境とは、子どもが「どこで」「何を」「いつ」「どれだけ」「終わったらどうするか」が
分かるように環境を整えることです。見通しを持って安心して活動でき、自立につながります。



1 物理的構造化

どこで行うか（場所を分ける）

活動する場所を分けることで、子どもが安心して
取り組むことができます。

学習室



集中して課題に
取り組む場所

多目的エリア



集団活動や運動などを
行う場所

えらぶエリア



自分で活動を選んで
取り組む場所

休憩・おやつエリア



休憩や気持ちを
切り替える場所

●ポイント 場所を分けることで、子どもが「どこで何をやるのか」を理解しやすくなり、
安心して活動に取り組むことができます。

2 視覚的構造化

何を見れば分かるか（絵・写真・文字など）

目で見て情報を理解できるようにし、子どもが自分で
判断しやすくなります。

絵カード



活動の内容を
絵で示します。

写真



実際の写真で
イメージしやすく
します。

床の足跡マーク



並ぶ位置や順番を
足跡マークで
わかりやすく
しています。

●ポイント 見てわかる手がかりがあることで、子どもが落ち着いて
自分で行動できるようになります。

3 時間的構造化

いつ・どれくらい・いつ終わるか

見通しを持てるように工夫することで、安心して
活動に取り組むことができます。

スケジュール

- ① はじまりの会
- ② 学習
- ③ えらぶ
- ④ おやつ
- ⑤ 帰りの会

一日の流れを
見てわかるように
しています。

時間的経過が分かる工夫

タイマー



時間の経過を
見て、区切りが
わかります。

事前予告



3回したら
終わりだよ
話題の終わりを
事前に伝えることで、
見通しを持てます。

●ポイント 見通しが持てることで、安心して活動に取り組み、
気持ちの切り替えや次の活動につながります。

4 ワークシステム

何を・どれだけ・終わったらどうするか

課題の全体像がわかることで、子どもが自分で取り組み、
達成感を味わうことができます。

何をやるのが
わかる



課題の内容を
示しています。

どれだけやるのが
わかる



量が見えることで、
取り組み見通しが
持てます。

終わったらどうするかが
わかる



終わったら箱に入れる
など、次の行動が
わかります。

●ポイント ワークシステムがあることで、子どもが自分で取り組みやすくなり、
「できた！」という達成感につながります。

4つの構造化がそうと…

- 見通しを持って行動できるようになる
- 不安や混乱が減り、安心して過ごせる
- 自分で考えて行動する力が育つ
- 成功体験が増え、自信がつく



「できた！」が
増えて、
もっとやりたい！
につながります！

子どもにとってのよい環境とは…

- 何をやるのかがわかる
- どこでするのがわかる
- いつまでに終わるのがわかる
- 次に何をやるのかがわかる
- 安心して、自分で行動できる力が育ちます。



かなでは、4つの構造化を大切に、子ども一人ひとりが安心して、自分らしく過ごせる環境づくりを進めていきます。

第5章

安心できる環境の工夫

～子どもが安心して過ごせるために～

子どもたちが安心して活動するためには、心地よい環境とわかりやすいルール、そして安全への配慮が欠かせません。

かなででは、感覚・心理・身体のすべての面から、子どもが安心して過ごせる環境づくりを行います。



1 感覚への配慮

子どもによって、音・光・におい・触り心地などの感じ方はさまざまです。一人ひとりの特性に合わせて、感覚の負担を減らし、心地よく過ごせる環境を整えます。

工夫の例

音の調整	光の調整	においへの配慮	触り心地への配慮	スペースの確保
大きな音を避けます。	明るさを調整し、まぶしさを軽減します。	強いにおいを避け、換気を行います。	肌触りのよい素材や、安心できる物を用意します。	テールダウンできる場所を確保します。

感覚の特性を理解し、安心して過ごせる環境を整えることが、活動への意欲につながります。

2 心理的な安心

子どもが安心して活動するためには、「わかる」「できる」「認められる」経験を積み重ねることが大切です。

工夫の例

見通しを持つ	肯定的な声かけ	選べる機会をつくる	気持ちを受け止める環境を整えます
スケジュールや手順を示し、先の見通しを持てるようにします。	できたことを具体的に伝え、自信につなげます。	選べる場面を設け、自分で決める経験を増やします。	心が落ち着き、安心して過ごせるようにします。

安心してできる関わりが、子どもの心を安定させ、挑戦する力を育てます。

3 ルールと約束の明確化

わかりやすいルールや約束があることで、子どもは安心して行動できます。視覚的に示し、繰り返し伝えることで、理解と定着を図ります。

工夫の例

ルールの掲示	短く、具体的に伝える	一貫した対応	できたときに認める
イラストやカードでルールをわかりやすく示します。	短い言葉で、具体的に伝えます。	職員全員が同じ対応することで、子どもが混乱せず安心できます。	ルールを守れたときにしっかりと認め、次の行動につなげます。

ルールや約束が明確だと、子どもは「安心して活動できる」「次に何をすればいいかわかる」となります。

4 身体的な安全管理

事故やけがを防ぐための環境整備と、日常的な安全確認を徹底します。子どもが安全に活動できる環境を維持します。

工夫の例

環境の安全点検	危険物の管理	動線の確保	体調の変化に気づく
定期的に設備や道具の安全点検を行います。	はさみや薬品などの危険物は、子どもの手の届かない場所に保管します。	つまずきやすい物を片付け、安全な動線を確保します。	子どもの体調や表情を観察し、早めに対応します。

安全な環境が、子どもたちの安心と笑顔を守ります。

安心できる環境づくりのポイント

一人ひとりに合わせる 子どもの特性や気持ちに寄り添い、環境や関わり方を調整します。	小さな変化に気づく 表情や行動の変化に気づき、早めに環境を整えます。	チームで共有する 職員同士で情報を共有し、協力して支援します。	安心から挑戦へ 安心できる環境が、子どもの「やってみよう」という気持ちを育てます。

安心して過ごせる環境が、
子どもの笑顔と成長につながります！



第6章

支援の組み立て

～一人ひとりに合った支援をつくるために～

かなででは、子ども一人ひとりの特性や状況を丁寧に理解し、
「その子に合った支援」を計画・実施・評価・改善していきます。
子どもや保護者の思いを大切にしながら、チームで連携して支援を行います。



支援の流れ (PDCAサイクル)

1 アセスメント (理解する)

- ・子どもの発達や特性
- ・生活の様子
- ・強みや興味・関心
- ・困りごとや課題
- ・環境や支援の状況などを把握します。

P

2 計画を立てる (計画する)

アセスメントをもとに、
目標と支援内容を決め、
個別支援計画を作成します。

- ・長期目標
- ・短期目標
- ・支援内容と方法
- ・評価方法

P

3 支援を実施する (実行する)

計画に基づき、環境を整え、
関わりや活動を通して
支援を行います。

- ・一人ひとりに合わせた支援
- ・わかりやすく、見通しをもった環境づくり
- ・成功体験を積み重ねる支援

D

4 評価・改善する (振り返り、次につなぐ)

支援の効果を振り返り、
よりよい支援につなげるために
計画を見直します。

- ・目標の達成状況の確認
- ・子どもや保護者の意見
- ・支援内容や方法の見直し

C・A

PDCAサイクルを繰り返すことで、子どもの成長に合わせたよりよい支援を実現します。

支援を組み立てるときの視点

子ども理解の視点



- ・得意なこと
- ・興味や好きなこと
- ・苦手なこと・困りごと
- ・こだわりや反応の特徴
- ・発達の段階

生活全体の視点



- ・家庭での様子
- ・園や学校での様子
- ・友だちとの関わり
- ・生活習慣や健康状態
- ・家族の思いや願い

環境の視点



- ・物理的環境 (場所・道具など)
- ・人的環境 (人との関わり)
- ・時間の構造化
- ・ルールや手順のわかりやすさ

未来につながる視点



- ・将来の生活を見据えた力
- ・自分でできる力
- ・社会参加につながる力
- ・自己肯定感や自信

個別支援計画のポイント

- ✓ 具体的に達成可能な目標を設定します。
- ✓ 子どもの強みを活かした支援内容にします。
- ✓ 日常生活や遊びの中で自然に身につく支援を大切にします。
- ✓ 本人・保護者の思いを計画に反映します。
- ✓ 評価・見直しの時期を決め、柔軟に改善します。



チームでの連携

子どもを支えるためには、職員同士の情報共有や
相談、役割分担が欠かせません。

- 定期的なミーティングやケース会議の実施
- 支援内容や子どもの変化の共有
- 保護者や関係機関との連携
- みんなで支え合うチームづくり



私たちが大切にすること



子どもは日々成長し、状況も変化していきます。
一人ひとりの「今」に寄り添いながら、
将来の「自分らしい生活」につながる支援を
目指します。

子どもが主役

子どもの思いや願いを
尊重し、主体的な育ちを
支えます。

つながりを大切に

家庭・学校・地域と
連携し、切れ目のない
支援を行います。

ともに育つ

子どもと保護者、職員が
一緒に成長していく
関係を大切にします。



第7章

一人ひとりに合わせた個別支援

～その子らしい成長を支えるために～

子ども一人ひとりの発達や特性、興味・関心、生活の状況はそれぞれ異なります。かなででは、一人ひとりの「今」を丁寧に理解し、その子に必要な支援を計画し、継続的に見直していくことで、成長を支えています。



1 一人ひとりを理解する

子どものことを多方面から理解することが、その子に合った支援の第一歩です。

- 発達の状況
- 得意なこと・好きなこと
- 苦手なこと・困りごと
- 生活の様子
- 家族の思いや願い
- 医療・福祉・教育の情報



子どもや保護者との対話を大切にし、信頼関係を築きながら情報を集めます。

2 個別支援計画を作成する

集めた情報をもとに、子どもと保護者の思いを大切にしながら、個別支援計画を作成します。

長期目標

将来の姿を見通して、大切にしたいことを目標にします。



短期目標

長期目標を達成するために、具体的に取り組みやすい目標を設定します。



支援の内容・方法

目標に合わせて、いつ・どこで・誰が・どのように支援するかを計画します。



子どもや保護者と共有し、安心して取り組める計画をつくります。

3 支援を実施する

計画に基づき、日々の療育や活動の中で支援を実施します。子どもの様子をよく観察し、成功体験を積み重ねられるように関わります。

安心できる
関わり



見通しを持てる
スケジュール



わかりやすい
支援ツールの活用



「できた！」を
一緒に喜ぶ



「その子に合った方法」で、「できた！」を増やしていきます。

4 評価・見直しを行う

定期的に支援の効果を振り返り、目標の達成状況を確認します。子どもや保護者の思いの変化も大切にしながら、計画を見直します。

目標の達成状況を
振り返る



どこまでできるようになったかを確認します。

子どもや保護者の
思いを確認する



今の思いや願いを丁寧に聞き取ります。

計画を見直す・
次の目標を設定する



必要に応じて計画を修正し、次の目標へつなげます。

子どもの成長に合わせて、柔軟に計画を見直していきます。

個別支援のポイント

子どもを理解する

一人ひとりの個性や特性を尊重し、その子らしさを大切にします。



強みや興味を活かす

得意なことや好きなことを支援に取り入れ、意欲や自信につなげます。



小さな成功体験を積み重ねる

「できた！」の経験を重ねることで、自信や意欲が育ちます。



チームで支える

職員・家族・学校・関係機関が情報を共有し、連携して支援します。



将来を見据えた支援

今の成長が、将来の自立や社会参加につながるように支援します。



子どもと保護者とともに歩む支援

かなででは、子どもだけでなく、家族の思いや願いも大切にします。一緒に考え、一緒に喜び、一緒に歩むことで、よりよい支援が実現します。

私たちの願い

一人ひとりの「できた！」が、将来の自立と社会参加につながる力となるよう、これからも心を込めて支援していきます。



第8章

保護者・家族・関係機関との連携

～チームで支える安心の支援～



子どもの成長には、家庭・学校・地域・関係機関が連携し、同じ方向を向いて支えることが大切です。

かなでは、保護者や関係機関と信頼関係を築き、情報を共有しながら、一人ひとりに合った支援をチームで進めていきます。

1 保護者との連携

日々の様子や成長を共有し、保護者の思いや願いに寄り添いながら、一緒に子育てを支えていきます。

情報の共有	思い・願いの共有	信頼関係の構築	子育ての応援
活動の様子や成長の過程を丁寧に伝えます。	子育ての悩みや不安を受け止め、一緒に考えます。	丁寧な対応と誠実な関わりで、信頼関係を築きます。	保護者が安心して子育てできるよう、応援します。

システムについて

- ・支援記録は、できるだけ早く書きます。
- ・行動記録ではなく、どのような支援をしたのかを記録します。
- ・記録は、コミュニケーションツールの1つとして大切にしています。

支援記録の書き方（SOAP方式を参考にしています）

S 主観的情報 (Subjective)	子どもの発言や気持ち、保護者からの情報など
O 客観的情報 (Objective)	その時の様子や行動、状況など事実を記録
A アセスメント (Assessment)	子どもの状態の分析や支援の気づき・評価
P 支援内容 (Plan)	実施した支援の内容と、今後の支援の方向性

※SOAP方式は、わかりやすく記録し、チームで共有するための方法です。

3 情報共有のポイント

正確に必要な情報を、必要な人に、適切な方法で共有します。

正確に伝える	必要な情報を選ぶ	適切な方法で共有する	個人情報の保護
事実をもとに、わかりやすく伝えます。	子どもにとって必要な情報を、整理して伝えます。	面談・連絡・会議やシステムなどを使います。	個人情報を守り、安全に管理します。

情報は「伝えること」が目的ではなく、「支援につなげること」が目的です。

連携の目的



子どもが安心して過ごし、自分らしく成長できるように、家庭・学校・地域・関係機関がつながり支えます。一人ひとりの「できた！」が増え、未来につながるように、チームで歩んでいきましょう。

2 関係機関との連携

学校や医療・福祉・相談支援事業所などと連携し、子どもにとって切れ目のない支援を目指します。

学校との連携	相談支援事業所との連携
行事や学習の様子を共有し、学校での支援につなげます。	サービス等利用計画に基づき、定期的に情報共有を行います。
医療機関との連携	地域との連携
必要に応じて情報を共有し、子どもの健康面を支えます。	地域の資源を活用し、子どもの生活を支えます。
それぞれの役割を尊重し、子どものために協力し合います。	

4 チームで支える体制づくり

子どもを中心に、みんながつながり、同じ目標に向かって支援します。

役割を理解し、協力する	定期的に話し合う	子どもを中心に考える
それぞれの役割を理解し、助け合いながら支援します。	情報を共有し、支援の方向性を確認します。	子どもの最善の利益を第一に考えます。
「みんながつながる」ことで、よりよい支援が実現します。		

5 連携における心がけ

- 相手の立場や考えを尊重します。
- こまめに連絡・相談し、情報を共有します。
- 感謝の気持ちを忘れず、丁寧に関わります。
- 子どもの成長や変化と一緒に喜びます。
- 困ったときは、早めに相談し合います。
- 信頼関係を大切にすることが、子どもを支える力になります。



連携のイメージ



第9章

日々の活動の流れとプログラム

～一人ひとりの成長を支える豊かな時間～

かなででは、構造化された環境の中で、子どもたちが安心して活動できるよう、一日の流れを大切にしています。

子ども一人ひとりの課題や発達段階に合わせたプログラムを通して、「できた!」「楽しい!」の経験を積み重ねていきます。



1 一日の流れ (例)

14:00～	来所・手洗い・検温 笑顔で迎え入れ、検温を行い、手洗いや身支度を行います。	
14:15～	はじまりの会 あいさつ・出席確認・スケジュールの確認を行い、気持ちを切り替えます。	
14:30～	個別課題 (自立課題) 一人ひとりに合わせた課題に取り組み、「できた!」を積み重ねます。	
15:00～	えらぶ活動・グループ活動 自分で「えらぶ」活動や、みんなで一緒に楽しく活動を行います。	
15:40～	おやつ・休憩 おやつを食べて、ゆったりとリラックスします。	
16:00～	ふりかえり・おわりの会 活動を振り返り、あいさつをして気持ちよく終了します。	
16:10～	帰りの準備・ごあいさつ・送迎 荷物を確認し、支援内容を保護者にお伝えして帰ります。	

※時間や内容は、子どもや季節、学校の下校時間などにより変わります。

2 活動プログラムの内容

	個別課題 (自立課題) ・視覚的にわかりやすい課題を提示します。 ・成功体験を積み重ね、自信につなげます。 ・集中力や持続力を育てます。
	えらぶ活動 (チョイス) ・自分でやりたい活動を「えらぶ」経験を大切にします。 ・主体性や自己決定力を育てます。 ・好きな活動を通して、意欲や興味を広げます。
	グループ活動 ・ルールのある遊びや制作、運動などを行います。 ・社会性や協調性を育てます。 ・みんなで活動する楽しさを味わいます。
	感覚あそび・運動あそび・お口の体操 ・身体を動かす楽しさを味わいます。 ・感覚を整え、心と体の発達を促します。 ・お口の体操で、食事や発音の力を育てます。
	生活・社会性を育てる活動 ・あいさつ・身だしなみ・順番を待つなど、生活に必要な力を育てます。 ・SST (ソーシャルスキルトレーニング) も取り入れます。

3 活動のポイント

構造化された環境 場所や物の配置を工夫し、見通しを持って安心して活動できる環境を整えます。	視覚的にわかりやすく スケジュールやルールを視覚的に示し、子どもが理解しやすい支援を行います。	小さな成功体験の積み重ね 「できた!」の経験を積み重ねて、自信ややる気、自己肯定感を育てます。
---	---	---

4 季節の行事・特別活動 (例)

季節の行事 ・こどもの日 ・七夕 ・ハロウィン ・クリスマス など	制作活動 季節の制作や手先を使う活動で表現力を育てます。	お出かけ活動 公園や公共施設などへ出かけ、社会経験を広げます。	クッキング活動 食材に触れ、作る・食べる経験を通して、食への興味や生活力を育てます。
--	--	---	--

5 年齢・発達に合わせた工夫

未就学児	遊びの中で学び、基本的な生活習慣や対人関係の基礎を育てます。感覚あそびや活動あそびを多く取り入れます。	
小学生 (低学年)	ルールの理解や集団活動、学習への姿勢を育てます。SSTや制作活動も取り入れます。	
小学生 (高学年)	自立課題や社会性の向上、自己理解を深める活動を行います。将来を見据えた支援を意識します。	
中学生・高校生	将来の自立や社会参加を見据え、生活力やコミュニケーション力を高める活動を行います。	

6 子どもの様子を記録し、支援に活かす

記録する 活動内容や子どもの様子をその日のうちに記録します。	振り返る 定期的に振り返り、課題や成長を確認します。	支援に活かす 子ども一人ひとりに合わせた支援へつなげていきます。
--	--	--

大切に
していること

子どもが主人公の活動を行います

安心できる環境で、楽しく
挑戦できる時間にします

一人ひとりの成長を
チームで支えます

笑顔あふれる毎日をつくります

第10章

評価・振り返りと改善

～よりよい支援をつくり続けるために～



かなでは、子ども一人ひとりの成長や支援の効果を定期的に振り返り、よりよい支援につなげていきます。

子どもや保護者、職員の声を大切に、チームで確認しながら改善を重ねていきます。

1 評価の目的

評価は、子どもの成長や支援の効果を確認し、今後の支援につなげるためにを行います。

子どもの成長の確認



目標に向かってどのように成長しているかを確認します。

支援の効果を振り返る



支援の方法や内容が適切であったかを振り返ります。

課題の発見と改善



うまくいったことや課題を見つけ、改善につなげます。

子どもに合った支援の継続



子どもに合った支援を大切に、よりよい支援を続けます。

評価は、子どもや保護者にとって安心につながる大切なプロセスです。

2 評価の方法

さまざまな方法を用いて、多面的に評価を行います。

観察記録



日々の活動や子どもの様子を記録します。

チェックリスト



目標の達成状況や支援の実施状況を確認します。

子どもの作品・活動



作品や活動の様子から成長や変化を確認します。

保護者の声



面談やアンケート等でご意見や気づきをいただきます。

職員の振り返り



職員同士で情報を共有し、支援を振り返ります。

多くの視点から評価することで、子どもの成長をより正確にとらえます。

3 評価の流れ (PDCAサイクル)

PDCAサイクルを回しながら、支援の質を高めていきます。

1 計画 (Plan)

個別支援計画を作成し、目標と支援内容を設定します。



2 実行 (Do)

計画に基づいて支援を実施します。



3 評価 (Check)

目標の達成状況や支援の効果を評価します。



4 改善 (Action)

評価をもとに、支援内容や方法を改善します。



PDCAを繰り返すことで、子どもにとってよりよい支援を実現します。

4 振り返りの視点 (例)

次のような視点で振り返りを行います。

- ✓ 目標に対して、どのくらい達成できたか？
- ✓ 子どもは、楽しみながら参加できていたか？
- ✓ 環境やスケジュールは、子どもにとってわかりやすかったか？
- ✓ 支援の方法は、子どもに合っていたか？
- ✓ 子どもや保護者の満足度はどうか？
- ✓ 課題は何か？その原因は何か？
- ✓ 次の目標や支援内容をどうするか？

どうすればもっとよくなるだろう？



「できたこと」も「課題」も大切に、前向きに振り返ります。

5 保護者との共有

評価の結果は、保護者と共有し、今後の支援に活かします。

定期的な面談



定期的に面談を行い、成長や課題、今後の支援について話し合います。

連絡帳・アプリでの共有



日々の様子や小さな変化を連絡帳やアプリでお伝えします。

ご意見・ご希望の確認



保護者のご意見やご希望を伺い、支援に反映します。

子どもと保護者が安心できるよう、丁寧に共有・連携を行います。

6 評価を支えるチーム力

職員一人ひとりが、チームの一員として役割を果たします。

情報の共有



職員間で情報を共有し、チームで支援を考えます。

専門性の活用



それぞれの専門性を活かし、質の高い支援を行います。

学びと研修



定期的に学び、支援の質を高める研修を行います。

協力と支え合い



お互いに支え合い、チームとして成長していきます。

チームの力が、子どもたちの笑顔と成長につながります。

評価・振り返りを通して大切にしたいこと



子どもを中心に常に「子どもにとってどうか」を考え、支援の質を高めていきます。



小さな成長を大切に小さな変化や「できた！」を積み重ねることで、子どもの自信と意欲を育てます。



チームで考える一人では抱え込まず、チームで話し合い、よりよい支援をつくり続けます。



未来につなげる今の支援が、子どもたちの未来の生活や社会参加につながるよう支援していきます。



評価と振り返りは、終わりではなく「次のよりよい支援」へのスタートです。これからも子どもたちの笑顔のために、ともに歩んでいきましょう。

第11章

引き継ぎと情報共有

～安心して支援をつなげるために～



子ども一人ひとりの成長を途切れなく支援していくためには、
正確な情報共有と丁寧な引き継ぎが欠かせません。
かなでは、チーム全体で子どもを理解し、安心して支援をつなげていきます。

1 引き継ぎの目的

子どもにとっての安心と継続した支援を守るために、
必要な情報を正確に伝え、スタッフ間で共有します。

支援の一貫性
を保つ



支援の方針や
関わり方を統一し、
安心につなげます。

子どもの変化を
早く把握する



小さな変化にも気づき、
適切な支援や対応に
つなげます。

安全・安心を
守る



リスクや注意点を
共有し、事故や
トラブルを防ぎます。

チームの連携
を強化する



情報を共有することで、
信頼関係を高め、
支援の質を高めます。

「子どもにとって一番よい支援は何か」を常に考え、情報をつなぎます。

2 情報共有のポイント

必要な情報を、必要な人に、必要なタイミングで共有します。

正確に伝える



事実をもとに、
具体的に伝えます。

わかりやすく伝える



専門用語は避け、
簡潔にまとめます。

タイミングを逃さない



必要なときに、
すぐ共有します。

記録に残す



共有した内容は、
記録に残します。

関係者で共有する



必要な職員・関係機関と
情報を共有します。

プライバシーを守る



個人情報の取り扱いに
十分配慮します。

共有された情報は、支援の宝物です。大切に扱いましょう。

3 引き継ぎに必要な主な内容 (例)

基本情報



・氏名・年齢・学年
・診断名・手帳の有無
・家族構成 など

発達・特性



・得意なこと、好きなこと
・苦手なこと、配慮点
・気をつけたこと など

支援の方法・工夫



・環境の工夫
・声かけの方法
・効果的だった支援 など

健康・医療情報



・アレルギー
・服薬の有無
・通院の状況 など

日常生活の様子



・睡眠・食事・排せつ
・生活リズム
・家庭での様子 など

課題・目標



・現在の課題
・長期目標・短期目標
・支援の方向性 など

引き継ぎ事項



・特に注意すること
・次の支援者への
お願い など

必要な情報を漏れなく引き継ぐことで、安心して支援をつなぐことができます。

4 引き継ぎの流れ (例)

①引き継ぎの準備 ②引き継ぎの実施 ③記録の確認・共有 ④支援の開始 ⑤フォローアップ



必要な情報を整理し、
引き継ぎ資料を
作成します。



口頭で丁寧に説明し、
質疑や確認を
行います。



引き継ぎ内容を
記録し、関係者に
共有します。



新しい担当者が
子どもの状況などを
スタートします。



必要に応じて情報を
追加し、支援を
見直します。

引き継ぎは「一度で終わり」ではなく、必要に応じて見直し・更新していきます。

5 こんなときは必ず引き継ぎを！

- ✓ 担当者が変更になるとき
- ✓ 事業所を移るとき (卒園・転所など)
- ✓ 学校・保育園との連携が必要とき
- ✓ 長期休暇や欠席が続いたあと
- ✓ 体調や状況に大きな変化があったとき
- ✓ トラブルや事故があったとき

迷ったときは
早めに共有・相談
しましょう！



小さなことでも共有することが、大きな安心につながります。

6 情報共有に活用するツール

連絡システム



日々の様子や連絡内容を
記録し、確認に伝えます。

口頭での申し送り



短時間でも丁寧に伝え、
疑問はそこで確認します。

ミーティング・ケース会議



定期的に情報を共有し、
支援の方向性を確認します。

情報共有アプリ・メール



必要な情報を迅速に
共有します。

関係機関連携



学校・医療・相談機関など
と連携して支援します。



大切に
したいこと

子どもが主人公の活動
を行います

安心できる環境で、楽しく
挑戦できる時間にします

一人ひとりの成長を
チームで支えます！

笑顔あふれる毎日
をつくりま

第12章

評価・改善と情報管理

～より良い支援をめざして～

子どもたちにとって最適な支援を継続していくために、支援の評価と振り返りを行い、改善につなげていきます。また、個人情報の適切な管理を徹底し、安心してご利用いただける事業所であり続けます。

大切にしていること

- 子どもの成長を客観的に評価する
- 支援の質を高め、より良い支援につなげる
- 保護者の意見を大切にし、信頼関係を築く
- 個人情報を適切に管理し、秘密を守る
- 法令・ガイドラインを遵守する



1 支援の評価と振り返り

定期的な支援の内容や子どもの変化を評価し、次の支援に活かします。

評価の方法

- 個別支援計画に基づいた目標の達成状況を確認する
- 日々の記録やモニタリングをもとに評価する
- 子ども本人や保護者の意見を聴く
- スタッフ間で情報を共有し、多角的に評価する



評価の視点

- 子どもの変化や成長
- 支援の効果や適切さ
- 環境や体制の課題
- 子どもや保護者の満足度



評価の結果をもとに、「できたこと」「今後の課題」を明確にし、支援の質の向上につなげます。

2 個別支援計画の見直しと改善

評価の結果や子どもの状況の変化に応じて、個別支援計画を見直します。

見直しのタイミング

- 定期的なモニタリング時（おおむね6か月ごと）
- 子どもの状況に変化があったとき
- 進学・進級などの節目



見直しのポイント

- 目標の達成度や課題の整理
- 新たなニーズや目標の設定
- 支援内容や方法の見直し
- 関係機関との連携の確認



子どもや保護者の意向を尊重し、関係機関と連携しながら、より適切な支援を計画します。

3 保護者との連携と意見の反映

保護者との対話を大切にし、ご意見やご要望を支援に反映します。

連携の方法

- 定期的な面談や相談の実施
- 連絡帳・アプリ・電話などでの情報共有
- 保護者アンケートの実施
- 日々の送迎時の対話



意見の反映

- 保護者の意見や要望を記録する
- 支援内容の改善や環境整備に活かす
- 意見への対応状況を共有する



保護者との信頼関係が、子どもの安心と成長につながります。

4 事業所全体での質の向上

事業所全体で取り組みを振り返り、支援の質を高めていきます。

取り組み

- 定期的なケース検討・事例検討
- 研修の実施と知識・技術の向上
- マニュアルや事例の見直し
- 環境・ヒヤリハットの分析と再発防止



目指す姿

- 子ども一人ひとりにとって最適な支援の提供
- 安心・安全で信頼される事業所づくり
- 地域に根ざした支援の実現



小さな気づきや改善を積み重ね、より良い支援を目指します。

5 情報管理と個人情報の保護

子どもやご家族の大切な情報を、適切に管理し、秘密を守ります。

情報管理の基本

- 個人情報は必要な範囲で取得・利用します
- 情報は正確に記録し、最新の状態を保ちます
- 紙媒体・データともに施錠・パスワード等で管理します



職員の約束

- 他の人に情報を漏らしません
- 個人情報をSNS等で無断で使用しません
- 退職後も秘密を守ります



個人情報保護に関する法令・ガイドラインを遵守し、信頼される事業所を目指します。

6 各種記録の管理と保存

必要な記録を適切に保存し、必要なときに確認できるようにします。

記録の種類（例）

- 利用記録・支援記録
- モニタリング記録
- 個別支援計画書
- 連絡帳・面談記録
- 事故・ヒヤリハット記録 など



保存と廃棄

- 法令に基づき、一定期間保存します
- 保存期間終了後は、復元できない方法で廃棄します
- データは定期的にバックアップをとります



記録は支援の証拠であり、子どもやご家族を守る大切な資料です。

7 法令遵守とガイドラインの遵守

関係法令やガイドラインを理解し、適切な運営を行います。

遵守するもの（例）

- 児童福祉法・障害者総合支援法
- 個人情報の保護に関する法律
- 厚生労働省・自治体の指針・通知
- 事業所の運営規程・各種マニュアル



職員の心がけ

- 法令やルールを正しく理解する
- 日々の業務の中で遵守する
- 疑問や不安があるときは必ず確認・相談する



より良い支援を未来へ

評価と改善、情報の適切な管理を継続することで、子どもたち一人ひとりの成長を支え、安心して過ごせる環境をつくります。

職員全員が同じ思いを持ち、チームで支えることがより良い支援につながり、地域に信頼される事業所を目指していきます。



管理者メッセージ

～安心して通える場所であるために～

大切にしていること

- ❖ 子どもの成長を客観的に評価する
- ❖ 一人ひとりの状態を把握し、適切に対応する
- ❖ 事故やけがの予防に努める
- ❖ 緊急時に備え、迅速に対応できる体制をつくる
- ❖ 職員全員で連携し、情報を共有する
- ❖ 法令・ガイドラインを遵守する

多機能型事業所かなでは、子どもたち一人ひとりの育ちを大切に、ご家族や関係機関の皆さまと力を合わせながら支援を行っています。

このハンドブックは、かなでが大切にしている療育や支援の考え方をまとめたものです。安心してご利用いただくため、また支援の方向性を共有するために作成しました。

子どもたちが安心して過ごせる場所であること、そしてご家族が安心して相談できる場所であることを目指し、職員一同、日々より良い支援に努めてまいります。

地域の中でつながり、支え合いながら、子どもたちの成長とご家族の笑顔を共に育んでいけるよう、これからも誠実に取り組んでまいります。

今後とも、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

一人ひとりの育ちを大切に



安心して過ごせる場所であること



ご家族に寄り添い
安心を届ける



地域と共に歩む
事業所を目指して



かなでが大切にしていること



可能性を信じて
一人ひとりの「できた!」を
大切に、可能性を広げる
支援を続けます。



ご家族とともに
日々の子育てに寄り添い、
安心して相談できる関係を
築いていきます。



チームで支える
職員同士が連携し、
チームで一人ひとりの
支援に取り組みます。



未来につながる支援を
子どもたちが自分らしく
歩んでいける未来を
一緒に育てていきます。

多機能型事業所 かなで
管理者

すえ なが たかし
末 永 恭

児童発達支援管理責任者メッセージ

～未来につながる支援をめざして～



療育は、事業所の中だけで完結するものではありません。

私たちが大切にしているのは、「できた」を積み重ね、

その力が家庭や学校、そして地域での生活へとつながっていくことです。

子どもたちは、一人ひとり異なる発達の道のりを歩んでいます。

そのため、私たちは発達段階や特性に合わせて課題や環境を整え、
安心して挑戦できる支援を心掛けています。



私たちが見据えている「将来」とは、卒園や卒業だけではありません。

青年期や成人期を迎え、自分らしい人生を歩み、

自分で選び、自分で決め、社会の中で力を発揮している姿です。



そのとき、やりたいことや夢が見つかったときに、

「やってみよう」と一歩踏み出せる力を育んでいきたいと考えています。



子どもには、変化し、成長していく可能性があります。

だからこそ、私たちは今できることだけではなく、

その子の未来につながる支援を大切にしています。



これからも、ご家族や関係機関の皆さまと力を合わせながら、

一人ひとりの未来に寄り添う療育を積み重ねてまいります。



多機能型事業所 かなで
児童発達支援管理責任者

かやしま りえこ
荻嶋 里恵子



事業所情報



事業所名	多機能型事業所 かなで
運営法人	合同会社 きょうめい
所在地	〒889-1913 宮崎県北諸県郡三股町大字餅原993番地1
電話番号	0986-70-9885
サービス内容	児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援
対象	未就学児（児童発達支援）～高校生（放課後等デイサービス）
定員	10名
指定事業所番号	4551726161
発行日	2026年7月
発行	多機能型事業所 かなで

児童発達支援

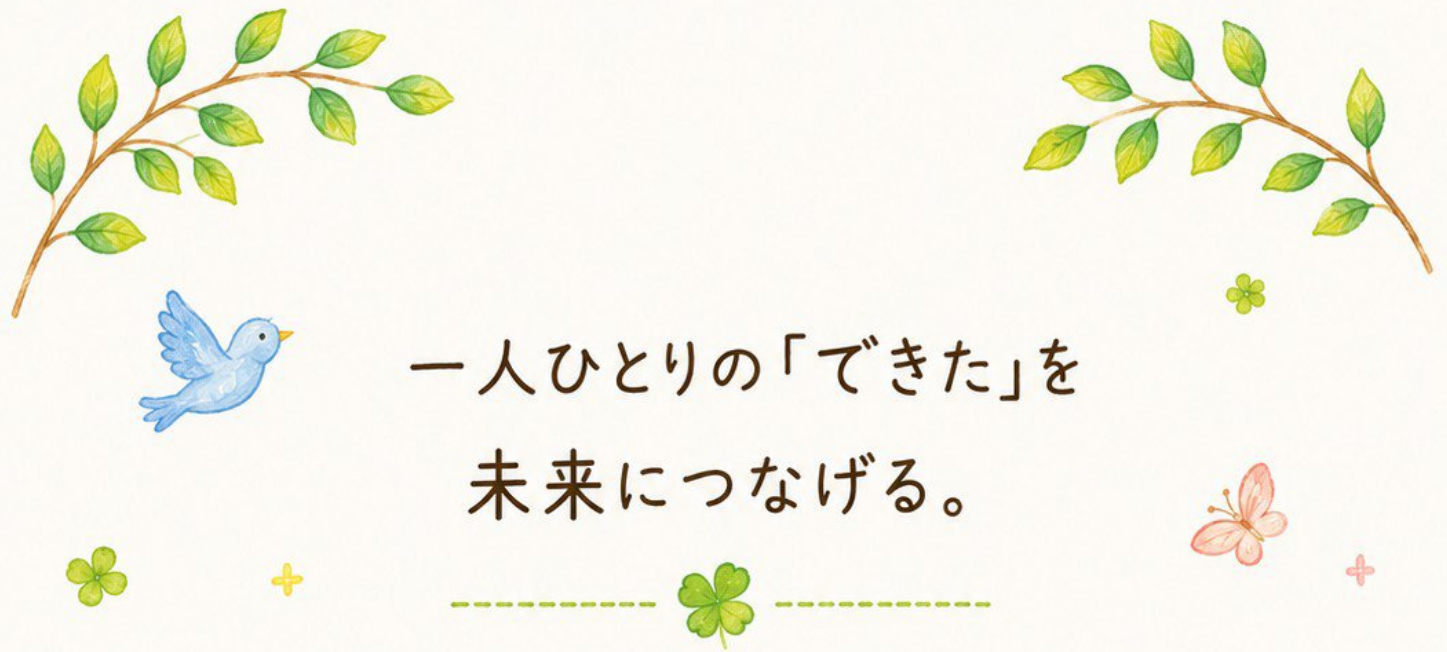
放課後等デイサービス

保育所等訪問支援

かなで療育実践ハンドブック

初版 2026年7月発行

Ver.1.0



一人ひとりの「できた」を
未来につなげる。

児童発達支援

放課後等デイサービス

保育所等訪問支援



多機能型事業所

かなで

合同会社 きょうめい

